



子宮頸がんを予防するワクチンについて

所長 今村 浩

HPV(ヒトパピローマウイルス)は、子宮頸がんなどの原因となるウイルスです。子宮頸がんは、ほとんどがHPVによって引き起こされていると考えられ、日本では、年間約1万1000人の女性が発症し、年間約2800人が亡くなっています。比較的若い女性に発症しやすいのが特徴で、20~40歳代の女性では、乳がんに次いで2番目に多いがんです。HPVワクチンを接種することでウイルス感染を防ぎ、子宮頸がんを予防できると考えられています。日本では、2013年4月以降、小学6年生から高校1年生相当の女性を対象に、原則無料で受けられる定期接種が行われています。

HPVワクチンは、接種が始まってから年月が経過し、子宮頸がんを防ぐ効果が確認できたとする研究成果が海外で出始め、16歳までに接種した人は接種していない人より子宮頸がんの発症が88%低かったと報告されています。しかし、日本では接種率が低いのが現状です。対象女性のうち接種を受けている割合

は、スウェーデン、イギリス、マレーシアなど、積極的に取り組んでいる国では80%以上なのに対し、日本では0.8%と、きわめて低くなっています。2013年に定期接種の対象となった直後に、国の「積極的勧奨」が中止されたことが大きく影響しています。

積極的勧奨が中止されたのは、「重篤な副反応」が報告されたためです。HPVワクチン接種を受けた女性1万人あたり5人の割合で、全身の痛み、手足の動かしにくさ、けいれんなどの重篤な症状が報告されています。ただし、ワクチン接種を受けなくてもこれらの症状が起きる可能性はあり、ワクチン接種とこれらの症状との因果関係ははっきりしないのですが、リスクがありえるという認識は必要です。また、このような症状で苦しむ女の子への手厚いケアも不可欠です。しかし最終的に、ワクチンの効果はリスクを上回ると判断され、国や自治体が2022年4月から定期接種の積極的勧奨を再開したため、当診療所でも子宮頸がんワクチンの接種を行っています。接種を希望される方は電話で事前にご予約ください。

<全世代対象の新型コロナワクチンは10月から接種開始です>

生後6か月以上の全世代を対象にした新型コロナウイルスワクチンの接種が、大津市では10月1日から開始されます。自己負担はなく、実施期間は2024年3月31日までです。今年5月以降に65歳以上や基礎疾患があるなどでワクチン接種を受けられた方は、接種日から3か月以上間隔を空ける必要があります。使用するワクチンは、オミクロン株のXBB系統に対応した1価ワクチンに変更されます。当院での接種は10月2日~11月10日まで、その後は来年1月から再開を予定しています。

当院では、12歳以上の方を対象に接種します。ご希望の方は、これまで通り大津市のコールセンター(電話 0570-002-092) かインターネット「ワクチン予約サイト」からご予約をお願いします。

★インフルエンザ予防接種は11/11から、予約は9/20から開始します

当院では、11月11日からインフルエンザワクチンの外来接種を開始します。ご予約は9月20日から電話等で受け付けます。新型コロナワクチンとの取り違えを避けるため例年よりかなり遅い接種期間となりますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

8月の太陽光発電量 **1,308kwh**

CO2削減量… 660Kg
杉の木の年間吸収量 約47本分